

28年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 12.5	8.3	4.2
	ヒノキ	△ 15.0	△ 15.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 8.3	△ 4.2	8.3
	ヒノキ	5.0	△ 5.0	15.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 12.5	△ 9.1
	ヒノキ	△ 30.0	△ 25.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は7月の減少が、8月、9月はやや増加。ヒノキは7月、8月の減少が、9月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは7月の増加が、8月、9月は横ばい。

・スギ原木の消費は7月、8月のやや減少が、9月はやや増加。ヒノキは7月の横ばいが、8月はやや減少するが、9月は増加。カラマツは7月の横ばいが、8月、9月大きく減少。トドマツは7月の増加が、8月、9月は横ばい。

・スギ及びヒノキ原木の在庫は3ヵ月連続して減少。カラマツは7月の減少が、8月、9月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/7月	8月	9月
スギ	25.0	20.8	20.8
ヒノキ	20.0	10.0	5.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ原木価格はやや強含みで推移。

・カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

’(原木荷動き)

- ・6月は天候が悪く入荷量が減少したが、7月より復調し改善する見込み。7月まではパレットの受注量が順調に推移したが、8月～10月位には落ち込むことが予測される(北海道)。
- ・6月は時期的なこともあり入荷は少なかったが、7月に入り順調に入荷。フル生産。1ヵ月の在庫を持ちたい(北海道)。
- ・季節的に入荷減となる。販売は順調なので消費は横ばい(関東)。
- ・原木出材少ない(関東)。
- ・仕入量変わらず。使用量が変わらないため、消費に変動なし。まだ在庫が多いので、当月・翌月はスギ在庫は減少(関西)。
- ・梅雨、豪雨の影響が入荷に出るのでは。合板、バイオマスともに、やや過剰な在庫になりそうな状況なので、消費は余り変わらないが、在庫はこれから変化がありそう(関東)。
- ・7月、8月は天候不順のため入荷は減少する。9月より記念市等により、入荷は徐々に増加する。8月は残業中止のため消費は減。仕入れを少なくし在庫を減少させる(九州)。
- ・入荷は、7月、8月は減る見込み。消費は3ヵ月間ほぼ変わらない。傷む時期なので在庫は減らず(九州)。
- ・長雨のため原木不足。製品安値ながら、荷動きますます、10.5cm角のみ受注多い(九州)。
- ・雨と補助金の関係で出材が増えない。需要が上向いて来そうなので仕入れを増やしたいが、思うように行かない。出来るだけフル操業をしたいが、丸太と人手の面で出来ていない(九州)。
- ・入荷に特に変化なし。売れない製品を極力製材しないため、消費はやや減少。在庫は特に変化ない(九州)

(原木価格)

- ・小中径木の価格が変わる要素はなし、バイオマスの影響が今後どうなるか、合板、輸出が弱いと聞
が、原木が足りない地域がまだある(北海道)。
- ・原木不足で価格上昇(関東)。
- ・出材が減っているが、夏季ということもあり、価格には影響はないと思う(関西)。
- ・価格は横ばい(九州)。
- ・7月～8月は上昇の見込み、9月は天気次第(九州)。
- ・ヒノキ3m 10.5cm角、12.0cm角用丸太が一時落ち着いたが、再び上昇(九州)。
- ・特に変化なし(九州)。

28年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/7月	8月	9月
生産動向	スギ	△ 12.5	△ 12.5	8.3
	ヒノキ	5.6	△ 5.6	5.6
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	4.2	8.3	20.8
	ヒノキ	25.0	15.0	30.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 25.0	△ 29.2
	ヒノキ	△ 30.0	△ 25.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は7月、8月の減少が9月はやや増加。ヒノキは7月のやや増加が、8月はやや減少し、9月は再びやや増加。カラマツは7月の横ばいが、8月、9月は減少。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキの製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。カラマツは7月の横ばいが、8月、9月は減少。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	8.3	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 8.3	0.0	0.0
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 5.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	△ 6.3	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	△ 5.0	0.0	0.0
	土台角 12×4	△ 5.0	△ 5.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は柱角KD10.5cm及び通し柱12cm×6mが7月のやや強含みが、8月、9月は横ばいに。柱角KD12.5cm、母屋角及び平割が7月のやや弱含みが、8月、9月は横ばいに。桁角、タルキ、間柱ヌキ及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・ヒノキ製材品の柱角、通し柱及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。土台角は7月の弱含みが、8月は横ばいなし弱含み、9月は横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・フル生産。今ひとつ盛り上がり欠けるが、よくも悪くもない。サンギ建築材はこれからか？生産分は販売出来ている(北海道)。

・生産横ばい。出荷は順調。販売好調で在庫減(関東)。

・売れ行き少し悪い(関東)。

・生産に大きな変動なし。ヒノキは止まっていた出荷が動き出したため、荷動きは忙しい。在庫は少し多いため、年末にかけて徐々に調整(関東)。

・熊本の仮設や復興時に使う材などはちらほら話は聞くが、全体的には流れは良くない、梅雨明け時に注目(九州)。

・生産ただけは順調に出荷している(九州)。

・生産・在庫は3ヵ月間ほぼ変わらず。出荷は8月は少し減る見込み(九州)。

・荷動き好転の兆しが出てきた、それに対応したい。7月から秋に向かってよくなる見込み(九州)。

・受注生産の割合を増やしている。荷動きは決して悪くない。売れない製品をいかに減らしていくかが課題(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・スギ12cm角は、需要が少なく価格は横ばい、間柱は外材との価格競争のため上がらず。ヒノキ土台も需要がなく横ばい(関東)。
- ・製品価格はほとんど変えず(関東)。
- ・ヒノキは低いところで横ばい(九州)。
- ・ヒノキ土台角は上がるかも、その他は横ばい(九州)。
- ・単価は上がりそうにない。盆明け以降は多少上昇するかも。荷動き好転。特にスギ3m 10.5cm角やハリ、ケタ、間柱などは品不足の様相だが、今だ単価に反映されず。ヒノキも同様(九州)。
- ・価格は低位安定(九州)。
- ・ややスギEW用ラミナ足りない(九州)。

28年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは7月の減少が、8月、9月は横ばい。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は7月の減少が、8月、9月は横ばい。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は7月の増加が、8月は減少し、9月は横ばい。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/7月	8月	9月
米マツ丸太	△ 100.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は7月、8月の弱含みが、9月は横ばいに
 ・NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータは低調な需要が継続し、全てに対し変化なし(中国)。

(原木価格動向)

・NZラジアータは低調な需要が継続し、全てに対し変化なし(中国)。

28年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	28/7月	8月	9月
生産			
米マツ製材品	△ 100.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は7月の減少が、8月、9月は横ばいに。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は7月の横ばいが、8月は減少し、9月は再び増加。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/7月	8月	9月
米マツ平角	0.0	△ 50.0	0.0
米マツ正角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割	△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角の価格は7月の横ばいが、8月は弱含み、9月は横ばいに。正角は7月の弱含みが、8月、9月は横ばい。

・NZ梱包材（割板、割角）及び土木用材は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータは低調な需要が継続し、全てに対し変化なし(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータは低調な需要が継続し、全てに対し変化なし(中国)。